

短期大学における専門教育プログラムの課題抽出

— 第一報 住居学科卒業生動向調査報告 —

Extraction the Problems of Professional Education Program on Junior College

— Part1. A Trend Survey of Housing Studies Department's Graduates —

小林文香

Fumika Kobayashi

要約

本研究は、卒業生に本学の教育が根付いているか、そして彼らの生活や仕事にどのような影響を及ぼしているかの把握を行い、短期大学教育の課題抽出、今後のあり方を検討することを目的とする

第一段階として他学科に比べ卒業生の就労の幅が広い住居学科卒業生を対象に動向調査を行い、卒業生の生活観、就労状況の把握および住居学科専門教育の影響の把握を行った。調査結果は以下のとおりである。

- 1) 回答者の4分の3は住居学科教育と関連のある住宅・建設・インテリア業界に就職しており、現在も住宅・建設・インテリア業界で仕事をしている者は全体の4割弱になる。
- 2) 回答者の7割近くは住宅・建設・インテリア業界で働きたいと考えている。
- 3) 卒業生は自己形成をする上で、住居学科で受けた設計製図などの実習教育、講義のほか、友人との付き合いやネットワークから影響を受けている。
- 4) 仕事をする上では、設計製図などの実習で得た専門技術、講義による専門知識の習得、二級建築士の受験資格が評価を得ている。

キーワード：住居学科、卒業生、生活観、就労状況、専門教育

目次

- I はじめに
- II 調査の概要
 - 1 調査の内容および方法
 - 2 調査回答者の概要
- III 卒業生の生活観
- IV 卒業後の進路および就労状況
 - 1 卒業後の進路
 - 2 卒業後の就労状況
 - 1) 卒業時の就職先について
 - (1) 業種
 - (2) 職種
 - (3) 雇用形態
 - 2) 現在の仕事について
 - (1) 業種
 - (2) 職種
 - (3) 雇用形態
 - 3) 転職経験
 - 3 資格取得
- V 住居学科で受けた教育の影響
 - 1 自己形成における住居学科教育の影響
 - 1) 年齢別
 - 2) 就労状況別
 - 3) 二級建築士取得別
 - 4) 仕事内容別
 - 2 仕事をする上での住居学科教育の影響
 - 1) 年齢別
 - 2) 就労状況別
 - 3) 二級建築士取得別
 - 4) 仕事内容別
- VI おわりに

I はじめに

近年、大学が研究機関だけでなく教育機関でもあることの見直しが行われ、短期大学は2年間という短い期間の中で、専門性に特化した教育を求められている。本学では、1984年開学以来、住居学科の二級建築士受験資格（実務経験0年）^{注1)}、社会福祉学科社会福祉学専攻の介護福祉士、社会福祉学科児童福祉学専攻の保育士と、社会において明確な役割と職域を持つ専門家育成の教育を行ってきた。しかし、この専門性に特化した教育とは、これまでのような資格取得を踏まえた職業教育を行うことだけでなく、社会的環境、経済的環境の目まぐるしい変化に対応できる新たな専門家領域を開拓することであると考えられる。これは地方都市にある短期大学が、地域に貢献しうる人材を育成することであり、卒業後の働く姿の可能性を提示していくことである。

本研究は、このような短期大学における専門教育のあり方を検討するため、卒業生に本学の教育が根付いているか、そして彼らの生活や仕事にどのような影響を及ぼしているかの把握を行う。

今回、第一段階として他学科に比べ卒業生の就労の幅が広い住居学科卒業生を対象に動向調査を行い、卒業生の生活観、就労状況の把握および卒業生への住居学科専門教育の影響を明らかにした。本報では、卒業生の卒業後の就労状況、住居学科で受けた教育の評価について報告する。

II 調査の概要

1 調査の内容および方法

本調査では、①卒業後の進路、②就労状況、③住居学科の教育への評価、④現在の生活観、⑤仕事の満足度および重視度、⑥資格取得状況、⑦卒業後の再教育への関心について項目を設け質問した。

調査は、本学住居学科第1回生（1986年3月卒業）から第19回生（2005年3月卒業）を対象とした。調査票は配布、回収とも郵送で行った。調査期間は2005年10月7日から2005年10月31日である。配布数1086名、回収数196名、回収率18.0%である。

2 調査回答者の概要

調査回答者の基本的な属性を表1に示す。卒業生の年齢は調査回答者は30代前半が最も多く（34.7%）、次に20代後半（28.6%）である^{注2)}。性別は、男性9名（4.6%）、女性187名（95.4%）となり、本学住居学科の平均的な男女比である。家族構成は、配偶者がいる者が46.4%、子供がいる者が34.2%である。年齢別に既婚者をみると、20代前

半が1名(3.4%)、20代後半が22名(40%)、30代前半が39名(57.4%)、30代後半が25名(64.1%)、40代前半が4名(100%)である。また子供の有無をみると、20代前半2名(5.1%)、20代後半22名(23.6%)、30代前半27名(39.7%)、30代後半22名(56.4%)、40代前半3名(75.0%)である。年齢を追うごとに既婚率、子供のいる割合が高くなり、平均的な家族構成をしているといえる。

表1 調査回答者の属性

年齢	20～24	25～29	30～34	35～39	40歳～	計
	29	56	68	39	4	196人
	14.8%	28.6%	34.7%	19.9%	2.0%	100.0%

性別	男性	女性	計
	9	187	196人
	4.6%	95.4%	100.0%

配偶者	あり	なし	無回答	計
	91	104	1	196人
	46.4%	53.1%	0.5%	100.0%

子供	あり	なし	計
	67	129	196人
	34.2%	65.8%	100.0%

Ⅲ 卒業生の生活観

20代～30代の時期は、仕事、家庭が激しく変化し、生活や意識にも影響を与えるため、卒業後の就労状況を考察する際に、卒業生が現在の生活、仕事をどう捉えているのかを考慮する必要がある。そこで、卒業生に現在の生活を送る中で最も重要なものについて質問した。結果を図1に示す。「仕事」に重きをおいている者は、20代前半は31.0%であるが、30代前半は24.6%、30代後半は16.2%と減少していく。同様に、「プライベートな時間」に重きをおく者は20代前半で51.7%と半数を超えるが、30代後半になると10.8%まで減少する。一方、「家庭」、「子育て」は20代前半では5%未満であったのに対し、30代後半になると32.4%となる。年齢を追うごとに「仕事」、「プライベート」といった個人に強く関わる事柄から「家庭」、「子育て」と家族に関わる問題に関心が移っていくのがわかる。

次に、卒業生の生活観を詳しくみるために、家庭生活、職業生活に関する17項目を設け、質問をした。年齢別の結果を図2に示す。仕事について「何があっても仕事を続けたい」と答えた者は、20代前半で8割近くいたのに対し、20代後半は53.7%、30代前半は59.1%、30代後半は55.3%と1～2割減少する。また「これまでの専門、キャリアを更に積み上げていきたい」、「フルタイムで責任のある仕事をしたい」についても、20代前半では8～9割の者が同意を示しているが、年齢を追うごとにその割合は減少する。特に「フルタイムで責任のある仕事がしたい」は30代後半では42.1%に留まる。一方、「時間の融通の利く仕事がしたい」、「生活の変化に合わせて柔軟に仕事の仕方を変えて生きたい」は20代前半で8割近くであったが、30代になると9割を超える。回答者の95.4%が女性であることから、20代後半から30代前半にかけて結婚、出産などを経て生活に変化が現れ、

仕事に対する意識も変化している状況がわかる。このような中で「住居・インテリア・建築方面で働きたい」と答えた者は、20代前半が89.6%、20代後半が79.6%、30代前半が80.3%、30代後半が65.7%である。卒業生が仕事を考えるとき、現在も住居・インテリア・建築への関心が深いことがわかる。

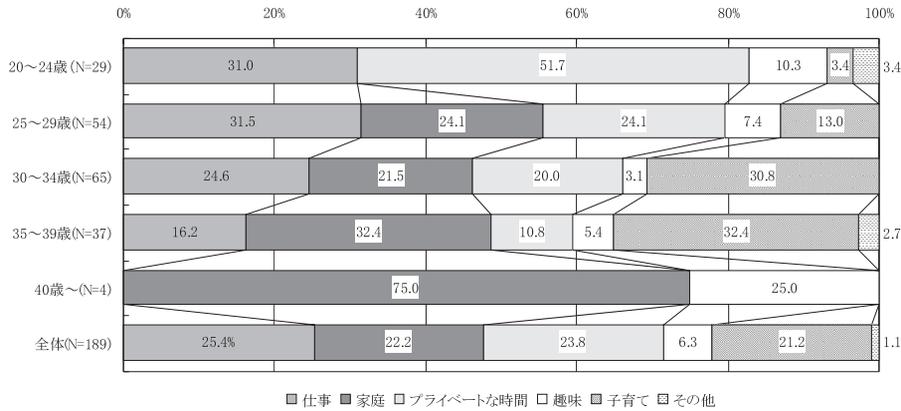


図1 現在の生活で重要視していること

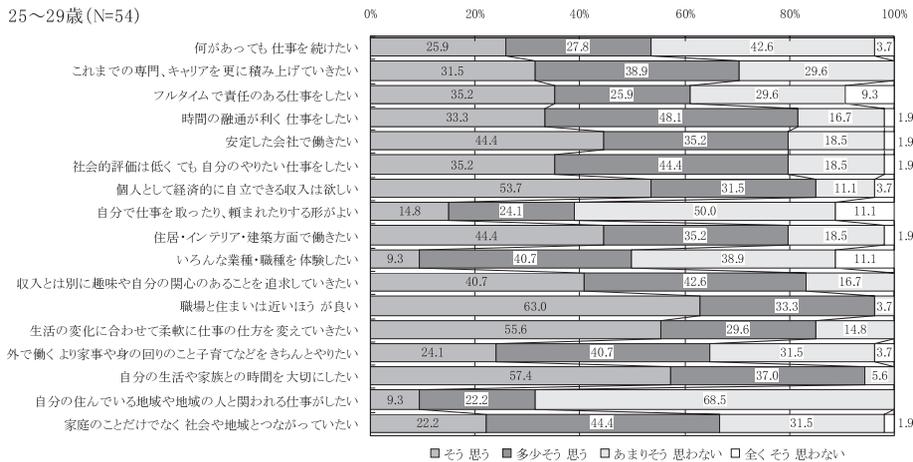
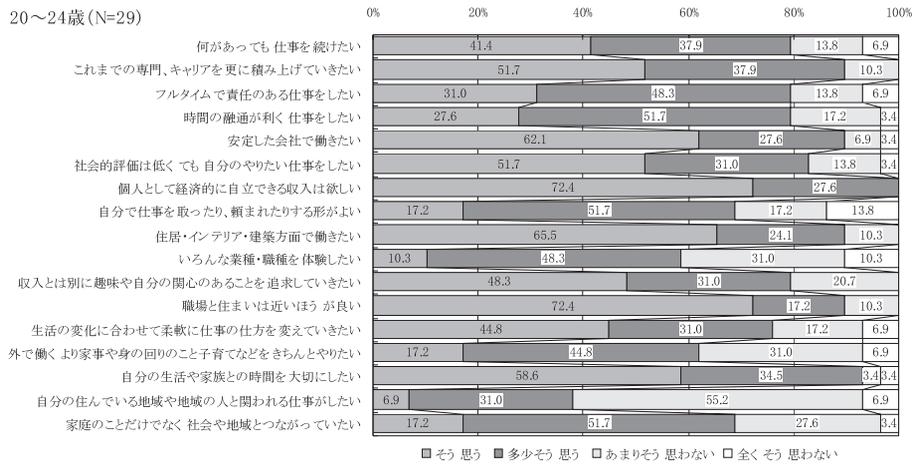


図2 現在の生活の捉え方 (年齢別)

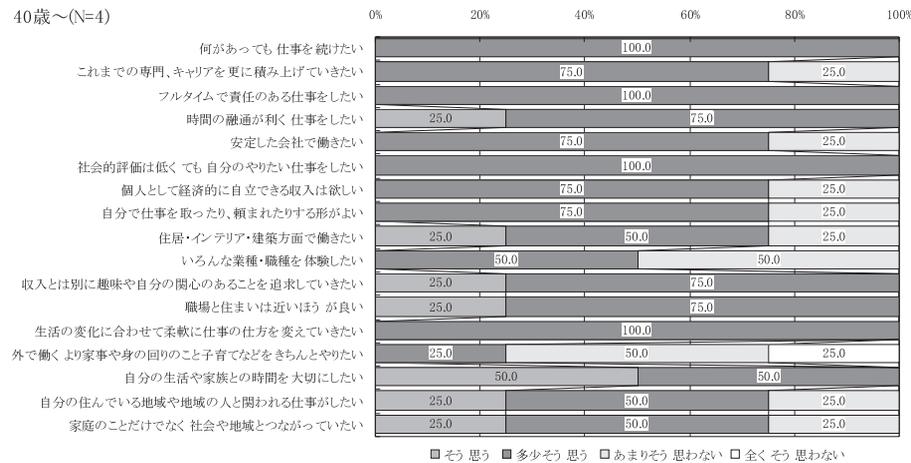
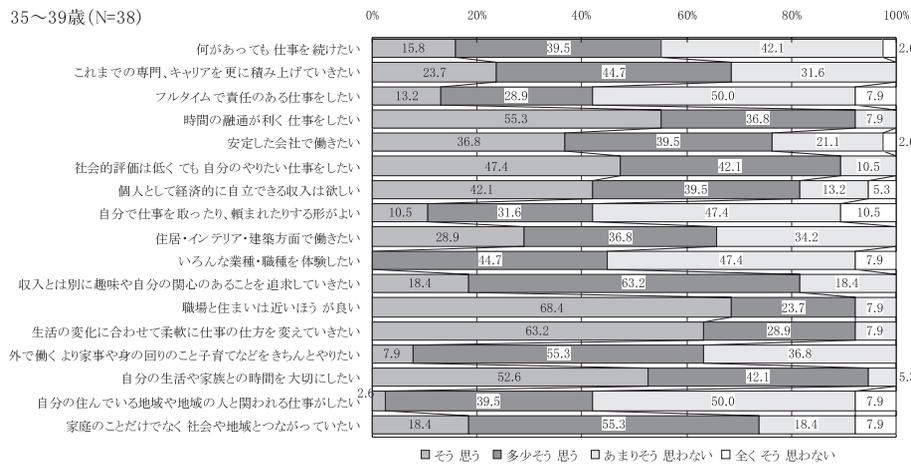
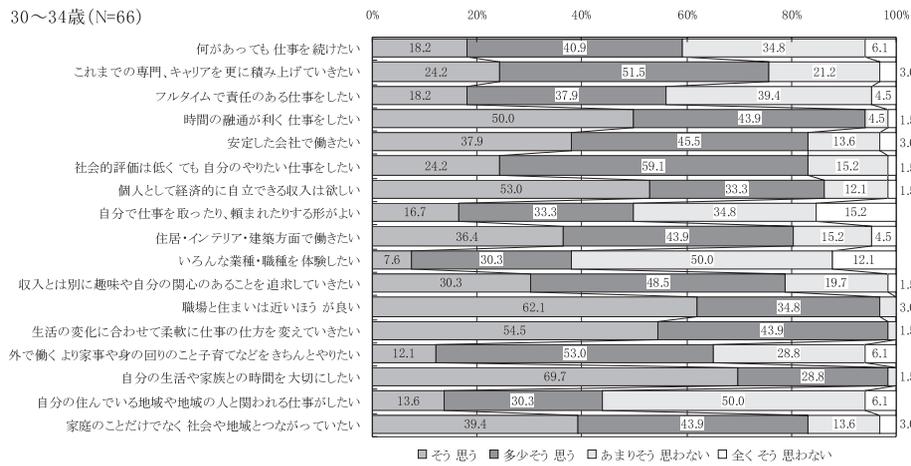


図2 現在の生活の捉え方 (年齢別)

IV 卒業後の進路および就労状況

短期大学における住居教育とは、住居に関する基礎教養だけでなく、住宅、建築関連の

専門職に就くための基礎教育である。それは2年間で二級建築士受験資格を実務経験0年で取得できるというカリキュラムに端的に現れている。本章では、卒業生の進路、就労状況を通し、住居学科での専門教育との関連をみる。

1 卒業後の進路

卒業後の進路を図3に示す。全体をみると85.2%が就職をしている。年齢別にみると、30代前半は88.2%、30代後半は97.4%が就職しているが、20代前半では69.0%にとどまる。一方、30代前半より四年制大学、専門学校への進学が増え始め、20前半では13.7%をしめる。進学することで自分の専門性を深めていく卒業生の姿がうかがえる。

次に、現在の就労状況を図4に示す。現在も仕事を続けている者は全体の68.9%になるが、20代前半では75.9%、30代後半では53.8%となり、年齢を追うごとに減少していく。また、配偶者がいる者は47.3%が就労しているのに対し、配偶者がいない者では



図3 卒業後の進路

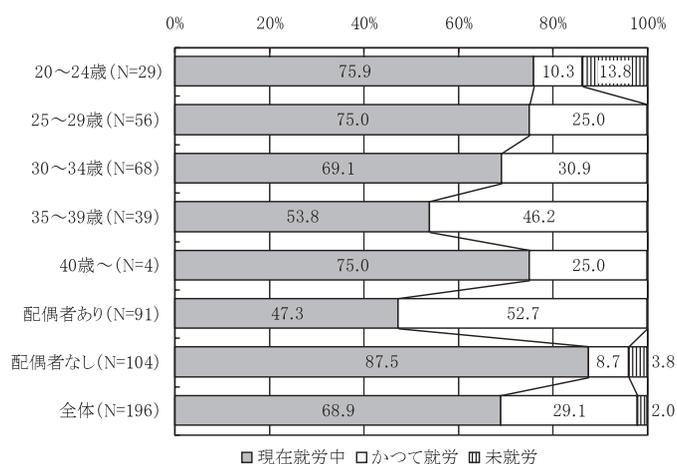


図4 就労状況

87.5%と倍近くの者が就労している。30代の就労割合が低いことは現在の日本の平均的な姿といえる¹⁾。また、20代前半では「その他」が13.8%をしめる。ここにはフリーター、アルバイト、進路未定が含まれ、卒業後すぐに正社員として働くことが出来ない現状がある。

2 卒業後の就労状況

1) 卒業時の就職先について

(1) 業種

卒業時の就職先の業種を年齢別に集計したものを表2に示す。全体をみると「建設会社」が24.3%と最も多い。次に「設計事務所」13.3%、「住宅メーカー」11.0%となり、住宅・建設業界に就職していることがわかる。年齢別にみると、「建設会社」は年齢に関係なく20%台をしめているが、「設計事務所」、「内装・インテリア業」への就職は最近になって減少している。「設計事務所」は30代前半の25.8%が最も多く、20代後半、20代前半とその割合は減少していく。また「内装・インテリア業」は世代ごとにしめる割合は少ないが、コンスタントに減少している。30代前半の卒業生の就職時期はバブル期にあたり、「建設会社」、「設計事務所」が新卒採用に積極的な時期であった。しかし、バブル崩壊後、中小企業である「設計事務所」、「内装・インテリア業」からの求人が減っている。このことが今回の調査結果にも現れているといえる。一方、30代より20代の就職の割合が増えているものとして、「住宅メーカー」、「販売サービス業」があげられる。近年住居学科入学者の多くがインテリアコーディネートへの関心を寄せており、卒業後の就職先として店舗・ショールームでの接客を希望する者が増えている結果ともいえる。

(2) 職種

卒業時の就職先の職種を年齢別に集計した結果を表3に示す。全体をみると「事務職」が最も多く25.1%をしめる。次いで「設計デザイン」が20.8%、「営業・販売」が12.0%をしめている。短大卒の女子は広く事務職として企業に採用されてきたが^{2) 3)}、本学でも同様の傾向があるといえる。年齢別にみると、「設計デザイン」、「インテリア関連」、「工事管理」、「施工図作成」は近年減少傾向にある。しかし、同じ専門技術職である「CADオペレーター」は10～15%を維持している。一方、近年増加傾向にある職種として、「営業・販売」があげられる。

以上より、30代は住宅・建設業界における専門技術職に就職する割合が高いが、20代は営業・販売職が増えていることがわかる。この違いは、バブル崩壊後の不況の打撃を受けている住宅・建設業界の不振といえるが、近年学生の一定層が販売職を希望しており、20代では「営業・販売」と「事務職」をあわせると過半数を超える。

(3) 雇用形態

卒業時の就職先の雇用形態を年齢別に集計した結果を表4に示す。全体をみると正規

短期大学における専門教育プログラムの課題抽出

表2 卒業時の就職先の業種

単位：人

	設計事務所	建設会社	工務店	設備施工会社	住宅メーカー	建材メーカー	設備機器メーカー	内装・インテリア業	不動産業	販売サービス業	印刷・出版・WEB	服飾アパレル	金融・保険	福祉事業	官公庁	その他	合計
20～24歳	1 4.0%	6 24.0%	2 8.0%	1 4.0%	3 12.0%	1 4.0%	1 4.0%	1 4.0%	0 -	5 20.0%	0 -	1 4.0%	1 4.0%	0 -	0 -	2 8.0%	25 100%
25～29歳	5 9.3%	13 24.1%	1 1.9%	1 1.9%	7 13.0%	2 3.7%	1 1.9%	4 7.4%	4 7.4%	5 9.3%	0 -	1 1.9%	0 -	0 -	1 1.9%	9 16.7%	54 100%
30～34歳	16 25.8%	14 22.6%	3 4.8%	1 1.6%	5 8.1%	1 1.6%	0 -	5 8.1%	4 6.5%	0 -	2 3.2%	1 1.6%	0 -	0 -	2 3.2%	8 12.9%	62 100%
35～39歳	2 5.4%	11 29.7%	2 5.4%	2 5.4%	4 10.8%	2 5.4%	2 5.4%	3 8.1%	3 8.1%	3 8.1%	0 -	0 -	0 -	0 -	1 2.7%	2 5.4%	37 100%
40歳～	0 -	0 -	1 33.3%	0 -	1 33.3%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 33.3%	3 100%
全体	24 13.3%	44 24.3%	9 5.0%	5 2.8%	20 11.0%	6 3.3%	4 2.2%	13 7.2%	11 6.1%	13 7.2%	2 1.1%	3 1.7%	1 0.6%	0 -	4 2.2%	22 12.2%	181 100%

表3 卒業時の就職先の職種

単位：人

	設計デザイン	インテリア関連	店舗接客・販売	シヨールーム・	工事管理	積算	施工図作成	CADオペレーター	製品開発	営業・販売	事務職	大工・職人	その他	合計
20～24歳	3 12.5%	0 -	1 4.2%	0 -	0 -	1 4.2%	0 -	3 12.5%	0 -	6 25.0%	7 29.2%	1 4.2%	2 8.3%	24 100%
25～29歳	9 16.4%	4 7.3%	5 9.1%	2 3.6%	2 3.6%	1 1.8%	4 7.3%	5 9.1%	0 -	9 16.4%	12 21.8%	0 -	4 7.3%	55 100%
30～34歳	15 23.4%	2 3.1%	2 3.1%	2 3.1%	2 3.1%	3 4.7%	5 7.8%	9 14.1%	1 1.6%	5 7.8%	16 25.0%	0 -	4 6.3%	64 100%
35～39歳	11 29.7%	3 8.1%	2 5.4%	2 5.4%	2 5.4%	0 -	4 10.8%	0 -	0 -	2 5.4%	11 29.7%	0 -	2 5.4%	37 100%
40歳～	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 33.3%	1 33.3%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	1 33.3%	3 100%
全体	38 20.8%	9 4.9%	10 5.5%	6 3.3%	6 3.3%	6 3.3%	14 7.7%	17 9.3%	1 0.5%	22 12.0%	46 25.1%	1 0.5%	13 7.1%	183 100%

表4 卒業時の就職先の雇用形態

単位：人

	民間の正社員	公務員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業主	自営業の家族従事者	その他	合計
20～24歳	17 68.0%	0 -	4 16.0%	1 4.0%	2 8.0%	0 -	1 4.0%	0 -	25 100%
25～29歳	44 80.0%	1 1.8%	3 5.5%	1 1.8%	5 9.1%	0 -	0 -	1 1.8%	55 100%
30～34歳	57 89.1%	1 1.6%	3 4.7%	0 -	2 3.1%	0 -	1 1.6%	0 -	64 100%
35～39歳	35 94.6%	0 -	0 -	0 -	1 2.7%	0 -	0 -	1 2.7%	37 100%
40歳～	3 100%	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	3 100%
全体	156 84.8%	2 1.1%	10 5.4%	2 1.1%	10 5.4%	0 -	2 1.1%	2 1.1%	184 100%

雇用である「民間の正社員」が84.8%をしめる。しかし、年齢別にみると、20代前半の「民間の正社員」は68.0%にとどまり、「契約社員」、「派遣社員」、「パート・アルバイト」などが残りをしめている。近年、企業が新規採用を抑えてきたため、短大生たちは厳しい状況下で就職活動を行っているが、今回の結果からも20代の卒業生たちは不安定な雇用で採用されていることが見て取れる。

2) 現在の仕事について

(1) 業種

現在の業種を年齢別に集計した結果を表5に示す。全体をみると、主な業種は「建設会社」16.7%、「設計事務所」10.3%、「住宅メーカー」8.7%である。また、最初についた業種では見られなかったものとして、「金融、保険」3.2%、「福祉事業」4.0%みられる。また、「その他」が20.6%となり、これまでの住宅・建設業界から他業界に移って仕事をしていることがわかる。年齢別にみると、「設計事務所」、「工務店」では20代より30代の就労割合が高いが、逆に30代になって減少しているのは「住宅メーカー」である。「設計事務所」、「工務店」は、他と比べ、独立して起業したり、家族による自営、地域密着型の経営も多く、女性が仕事を続けやすい環境が作られている可能性がある。

(2) 職種

現在の職種を年齢別に集計した結果を表6に示す。卒業時の就職先に比べ、専門職の割合は減る中、「その他」の職種に就く者が増えている。ただし、30代前半の「事務職」、「営業・販売」、「CADオペレーター」は卒業時の就職先と同程度の割合を維持している。

(3) 雇用形態

現在の雇用形態を年齢別に集計した結果を表7に示す。全体をみると卒業時の就職先に比べ、「民間の正社員」が56.7%と減っている。その一方で、「契約社員」、「派遣社員」、

表5 現在の業種

単位：人

	設計事務所	建設会社	工務店	設備施工会社	住宅メーカー	建材メーカー	設備機器メーカー	内装・インテリア業	不動産業	販売サービス業	印刷・出版・WEB	服飾アパレル	金融・保険	福祉事業	官公庁	その他	合計
20～24歳	1 4.5%	5 22.7%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	2 9.1%	1 4.5%	1 4.5%	0 —	2 9.1%	0 —	2 9.1%	1 4.5%	0 —	0 —	2 9.1%	22 100%
25～29歳	4 10.5%	5 13.2%	4 10.5%	0 —	4 10.5%	1 2.6%	3 7.9%	0 —	0 —	3 7.9%	2 5.3%	0 —	0 —	2 5.3%	2 5.3%	8 21.1%	38 100%
30～34歳	8 18.2%	8 18.2%	4 9.1%	1 2.3%	3 6.8%	1 2.3%	0 —	1 2.3%	1 2.3%	2 4.5%	0 —	0 —	2 4.5%	1 2.3%	2 4.5%	10 22.7%	44 100%
35～39歳	0 —	3 15.8%	2 10.5%	1 5.3%	1 5.3%	0 —	1 5.3%	1 5.3%	2 10.5%	0 —	0 —	0 —	1 5.3%	1 5.3%	1 5.3%	5 26.3%	19 100%
40歳～	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	1 33.3%	3 100%
全体	13 10.3%	21 16.7%	11 8.7%	3 2.4%	11 8.7%	4 3.2%	5 4.0%	3 2.4%	3 2.4%	8 6.3%	2 1.6%	2 1.6%	4 3.2%	5 4.0%	5 4.0%	26 20.6%	126 100%

「パート・アルバイト」は合計すると全体の32.3%をしめる。これらの非正規の雇用形態は20代より30代に多い。この傾向は前述の生活観にみられた、時間の都合が付き、自分の生活の変化に対応できる働き方として選ばれているためといえる。また、「自営業主」、「自営業の家族従事者」が合わせて7.8%と卒業時よりも増加しているのは、住宅・建設業界は設計事務所の独立起業、実家の工務店の継承など自営業となる機会が多いためである。

表6 現在の職種

単位：人

	設計デザイン	インテリア関連	店舗接客・販売	ショールーム・工事管理	積算	施工図作成	CADオペレーター	製品開発	営業・販売	事務職	大工・職人	その他	合計
20～24歳	3 14.3%	0 —	0 —	0 —	1 4.8%	0 —	1 4.8%	0 —	6 28.6%	8 38.1%	1 4.8%	1 4.8%	21 100%
25～29歳	7 17.9%	2 5.1%	2 5.1%	0 —	0 —	3 7.7%	3 7.7%	0 —	3 7.7%	8 20.5%	1 2.6%	10 25.6%	39 100%
30～34歳	9 20.5%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	2 4.5%	5 11.4%	2 4.5%	2 4.5%	11 25.0%	0 —	9 20.5%	44 100%
35～39歳	2 10.5%	2 10.5%	0 —	1 5.3%	1 5.3%	1 5.3%	2 10.5%	0 —	2 10.5%	4 21.1%	1 5.3%	3 15.8%	19 100%
40歳～	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 33.3%	1 33.3%	0 —	1 33.3%	3 100%
全体	21 16.7%	5 4.0%	3 2.4%	2 1.6%	3 2.4%	6 4.8%	11 8.7%	2 1.6%	14 11.1%	32 25.4%	3 2.4%	24 19.0%	126 100%

表7 現在の雇用形態

単位：人

	民間の正社員	公務員	契約社員	派遣社員	パート・アルバイト	自営業主	自営業の家族従事者	その他	合計
20～24歳	14 63.6%	0 —	3 13.6%	3 13.6%	1 4.5%	0 —	1 4.5%	0 —	22 100%
25～29歳	24 61.5%	2 5.1%	3 7.7%	2 5.1%	4 10.3%	0 —	4 10.3%	0 —	39 100%
30～34歳	23 52.3%	1 2.3%	4 9.1%	5 11.4%	7 15.9%	3 6.8%	1 2.3%	0 —	44 100%
35～39歳	9 47.4%	0 0.0%	3 15.8%	0 —	5 26.3%	1 5.3%	0 —	1 5.3%	19 100%
40歳～	2 66.7%	0 —	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	0 —	3 100%
合計	72 56.7%	3 2.4%	13 10.2%	10 7.9%	18 14.2%	4 3.1%	6 4.7%	1 0.8%	127 100%

3) 転職経験

卒業生の転職経験を図5に示す。転職経験がある者は全体の69.7%になる。これを年齢別にみると、年齢が増すほど転職率も増加し、30代後半では83.8%が転職を経験している。また、就労経験別にみると、現在仕事についている者のほうが、現在仕事を中断中

の者よりも転職の経験率が高い。

次に、卒業時の就職先の転職・退職理由を表8に示す。最も多いのが「結婚したため」12.5%となり、「出産したため」をあわせると2割近くとなる。自分の家族形態が変化することによる転職・退職が多いことがわかる。また、「自分に適していない仕事だった」、「労働条件が悪かった」がそれぞれ1割強をしめている。住居学科は二級建築士取得を前提とした教育を行っているが、就職先の間口が広く、2年間という短い期間では、学生が職業選択を行う際の情報や住宅・建設関連業界の業種、職種への理解が不足していることが原因と考えられる。

次に、現在の仕事の継続理由を表9に示す。20代前半では「個人として経済的に自律するため」が最も多く38.9%をしめる。20代後半、30代は理由が分散するが、「自分の技術や資格を活かせるため」、「仕事にやりがいを感じているため」といった自分の職業スキルを培ってきたことを示すものや、「家計を支える、補助のため」という家庭の事情によるものが増える。それぞれの年齢に起こりうる問題や、これまでの就労経験がうかがえる結果といえる。

次に、卒業時の就職先と現在の職種を表10に示す。双方の職種がほぼ半数の割合で同じであることが分かる。特に現在職域、職能が確立されている「設計デザイン」、「CADオペレーター」、「営業・販売」「事務職」は相関性が高い。このような職種は卒業時の就職先がその後の職業選択に影響を及ぼしていることが示唆される。

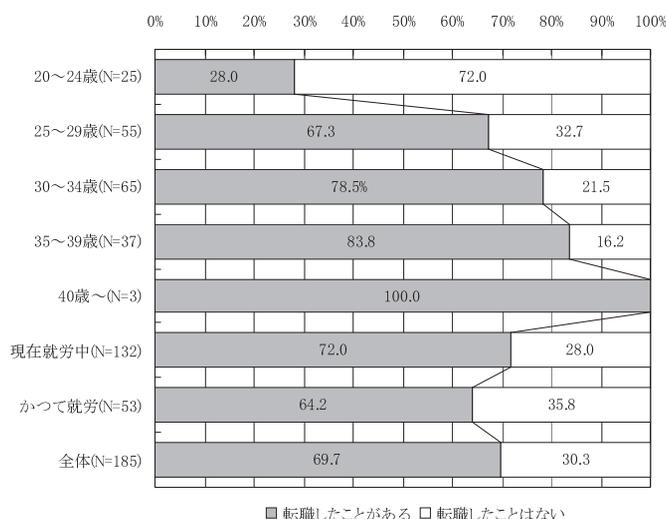


図5 転職経験

3 資格取得

回答者のうち、何らかの資格を取得している卒業生は144名であり、全体の73.5%をしめる。主な資格取得状況を表11に示す。本学住居学科では二級建築士の受験資格を卒

短期大学における専門教育プログラムの課題抽出

表8 卒業時の就職先の転職・退職理由

単位：人

	結婚をしたため	出産・子育てのため	家庭の事情 (家事・介護等)	自身の健康上のため	家族の転勤・転職・事業所移転	進学・留学・技術習得のため	仕事だったため	収入が少なかつたため	労働条件が悪かつたため	職場の人間関係がうまくいかなかつたため	一時的に就いた仕事だったため	採用期限のある仕事だったため	勤務先の先行きが不安だったため	人員削減のため	会社が倒産したため	家業を継ぐため	勤務地が自宅から遠すぎたため	その他	合計
20～24歳	1 12.5%	0 —	0 —	0 —	1 12.5%	0 —	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 —	0 —	0 —	1 12.5%	0 —	0 —	0 —	0 —	1 12.5%	8 100%
25～29歳	5 11.6%	2 4.7%	1 2.3%	2 4.7%	1 2.3%	0 —	4 9.3%	1 2.3%	4 9.3%	3 7.0%	3 7.0%	1 2.3%	1 2.3%	1 2.3%	2 4.7%	2 4.7%	0 —	10 23.3%	43 100%
30～34歳	5 9.1%	6 10.9%	1 1.8%	4 7.3%	0 —	3 5.5%	5 9.1%	0 —	5 9.1%	5 9.1%	2 3.6%	1 1.8%	6 10.9%	2 3.6%	1 1.8%	0 —	1 1.8%	8 14.5%	55 100%
35～39歳	6 17.1%	3 8.6%	1 2.9%	1 2.9%	0 —	4 11.4%	5 14.3%	0 —	4 11.4%	0 —	0 —	1 2.9%	1 2.9%	1 2.9%	1 2.9%	0 —	2 5.7%	5 14.3%	35 100%
40歳～	1 33.3%	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	3 100%
全体	18 12.5%	11 7.6%	3 2.1%	8 5.6%	2 1.4%	7 4.9%	16 11.1%	2 1.4%	15 10.4%	8 5.6%	5 3.5%	3 2.1%	9 6.3%	4 2.8%	4 2.8%	2 1.4%	3 2.1%	24 16.7%	144 100%

表9 現在の仕事の継続理由

単位：人

	家計を支える、補助のため	個人として経済的に自律するため	自分の自由に使えるお金がほしいため	自分の時間を確保できている	自分の技術や資格を活かせるため	社会に貢献したいため	仕事が面白い、楽しいため	仕事にやりがいを感じているため	仕事の内容が自分に適しているため	仕事に任せているため	自分しかできない内容の仕事に任せているため	いまの職場環境に不満がない	求職活動のつなぎで働いている	他に就職できるところがない	働くのが当然だから	家業だから	その他	合計
20～24歳	0 —	7 38.9%	2 11.1%	0 —	1 5.6%	0 —	2 11.1%	2 11.1%	0 —	0 —	0 —	1 5.6%	0 —	0 —	1 5.6%	1 5.6%	1 5.6%	18 100%
25～29歳	1 2.9%	4 11.8%	1 2.9%	0 —	3 8.8%	0 —	—	4 11.8%	4 11.8%	2 5.9%	3 8.8%	3 8.8%	1 2.9%	1 2.9%	1 2.9%	4 11.8%	5 14.7%	34 100%
30～34歳	7 16.7%	5 11.9%	2 4.8%	1 2.4%	2 4.8%	0 —	2 4.8%	3 7.1%	4 9.5%	1 2.4%	9 21.4%	2 4.8%	—	—	1 2.4%	1 2.4%	2 4.8%	42 100%
35～39歳	3 16.7%	3 16.7%	1 5.6%	0 —	5 27.8%	0 —	1 5.6%	3 16.7%	1 5.6%	0 —	0 —	0 —	—	1 5.6%	0 —	0 —	0 —	18 100%
40歳～	1 33.3%	0 —	0 —	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	1 33.3%	0 —	0 —	0 —	—	—	0 —	0 —	0 —	3 100%
全体	12 10.4%	19 16.5%	6 5.2%	1 0.9%	11 9.6%	1 0.9%	5 4.3%	12 10.4%	10 8.7%	3 2.6%	13 11.3%	3 2.6%	2 1.7%	2 1.7%	3 2.6%	6 5.2%	8 7.0%	115 100%

表10 卒業時の就職先と現在の職種

単位：人

卒業時の就職先	設計デザイン	インテリア関連	ショールーム・店舗接客・販売	工事管理	積算	施工図作成	CADオペレーター	製品開発	営業・販売	事務職	大工・職人	その他	合計
現在の職種													
設計デザイン	14	1	—	1	—	1	3	—	—	1	—	—	21
インテリア関連	—	2	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	5
ショールーム・店舗接客・販売	—	—	1	—	—	—	—	—	1	1	—	—	3
工事管理	—	—	1	—	—	—	—	—	0	1	—	—	2
積算	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	3
施工図作成	3	1	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	6
CADオペレーター	1	—	—	—	—	1	7	—	—	2	—	—	11
製品開発	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	2
営業・販売	1	1	—	0	1	1	1	—	7	—	—	2	14
事務職	2	—	3	1	—	—	2	—	3	20	—	1	32
大工・職人	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	3
その他	3	—	—	—	—	4	—	—	6	2	0	8	24
全体	26	5	5	4	4	8	13	1	18	30	1	11	126

業と同時に取得できるため、二級建築士を目指す者も多い。今回の回答者のうち30.9%が二級建築士を取得している。このほか、インテリアコーディネーターが11.3%、福祉住環境コーディネーター3級が8.2%となっている。一級建築士は3.6%である。本学の卒業生にとって、一級建築士受験のためには、二級建築士取得後実務経験4年を要する。一級建築士取得者数は卒業生が住宅・建設関連に継続就労していることをあらわしている。

次に、資格取得と現在の職種の関係を表12に示す。二級建築士の34.1%は「設計デザイン」に携わっており、一級建築士の半数も「設計デザイン」に携わっている。また、「施工図作成」、「CADオペレーター」に従事する者も、二級建築士、一級建築士、インテリアコーディネーターを取得している。建築士は、設計・工事監理業務を行う際に必須の資格であり、職種と資格の関連性は強い。これら専門技術、技能職に就いている者は、自分の技術能力の社会的評価を得るものとして積極的に関連資格も取得している。

表11 資格取得

単位：人

	二級建築士	一級建築士	インテリアコーディネーター	福祉住環境2級	福祉住環境3級	一級施工監理技士	二級施工監理技士	宅地建物取引主任者	ファイナンシャルプランナー
N=194	60	7	22	6	16	2	3	11	1
	30.9%	3.6%	11.3%	3.1%	8.2%	1.0%	1.5%	5.7%	0.5%

複数回答

表12 資格取得と現在の職種

単位：人

	設計デザイン	インテリア関連	店舗接客・販売・ショールーム	工事管理	積算	施工図作成	CADオペレーター	製品開発	営業・販売	事務職	大工・職人	その他	合計
二級建築士	14	2	1	0	1	4	7	0	2	3	2	5	41
	34.1%	4.9%	2.4%	-	2.4%	9.8%	17.1%	-	4.9%	7.3%	4.9%	12.2%	100%
一級建築士	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	6
	50.0%	-	-	-	-	16.7%	16.7%	-	-	-	-	16.7%	100%
インテリアコーディネーター	2	3	0	0	0	2	3	0	2	0	0	1	13
	15.4%	23.1%	-	-	-	15.4%	23.1%	-	15.4%	-	-	7.7%	100%
福祉住環境2級	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	5
	20.0%	-	20.0%	20.0%	-	20.0%	-	-	-	-	-	20.0%	100%
福祉住環境3級	1	0	1	1	1	0	2	0	1	3	0	2	12
	8.3%	-	8.3%	8.3%	8.3%	-	16.7%	-	8.3%	25.0%	-	16.7%	100%
宅地建物取引主任者	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	6
	33.3%	-	-	-	-	-	-	-	16.7%	16.7%	-	33.3%	100%

V 住居学科で受けた教育の影響

本章では、住居学科で受けた教育が卒業生の自己形成および仕事にどのような影響を及

ぼしているのかを調査結果から読み取る。

1 自己形成における住居学科教育の影響

現在の自分を振り返った時に住居学科で受けた教育の影響が感じられるかを質問した。年齢別、就労状況別、二級建築士取得別、仕事内容別に集計した結果を表13に示す（複数回答）。全体をみると、「設計製図など実習で得た専門技術」が53.6%と最も多い。次いで「講義などで得た専門知識」43.8%、「在学当時の友人との付き合いやネットワーク」40.2%、「二級建築士の受験資格」34.0%、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」29.4%と回答している。卒業生の自己形成において、住居学科の専門技術教育が影響を及ぼしている。

1) 年齢別

年齢別にみると、「設計製図など実習で得た専門技術」、「講義などで得た専門知識」、「在学当時の友人との付き合いやネットワーク」についてはどの世代も全体集計と同様の傾向を示している。そのほか、20代では「教員の助言」、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」があげられている。「二級建築士の受験資格」は20代後半から30代にかけて影響を受けている者が35～40%近くいる。これらの違いの理由として、前者は卒業後間もなく在学当時を思い出しやすいこと、後者は仕事内容が専門化し、責任が生じていく中で、その必要性や有効性を感じるようになるためと考えられる。

2) 就労状況別

就労状況別にみると、設計製図、講義、友人とのネットワークについては全体と同様の傾向を示している。現在の仕事の有無で差が現れているのは、「教員の助言」、「二級建築士の受験資格」、「広い視野で考えられるようになった」、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」である。就労者のほうが住居学科を積極的に評価しているといえるが、「広い視野で考えられるようになった」については未就労者に評価されている。

3) 二級建築士取得別

二級建築士の資格取得別にみると、差が顕著にあらわられているのは「二級建築士の受験資格」である。また、教員の助言、友人とのネットワーク、物事に取り組む姿勢についても資格取得者のほうが積極的な評価をしており、二級建築士取得者にとって、自己形成、仕事、住居学科教育の三つが深く結びついている様子が見える。

4) 仕事内容別

ここでは卒業時の就職先と現在の仕事内容別に集計した結果を比較する。卒業時の就職先の集計結果には当時に受けた学科教育の影響が強く反映されていると考えられる。また、現在の仕事内容別の集計結果は、卒業後の就労経験、生活を通して本人の意識変化が加わったものと考えられる。このため、両者を比較し、現在仕事をしている卒業生がどのような意識のもとに住居学科の教育を捉えているかを考察する。

表13 自己形成における住居学科教育の影響

単位：人

		専門知識	講義などで得た	設計製図など実習で得た専門技術	ネットワーキング	在学当時の友人との付き合いや	教員の助言	在学中に取得した資格	二級建築士の受験資格	住居分野以外の教養・知識	広い視野で考えられるようになった	形成出来た自分の価値観	姿勢に身に付いた	物事に取り組む	その他	特になし											
全体	N=194	85	104	78	31	10	66	21	37	38	57	3	13	43.8%	53.6%	40.2%	16.0%	5.2%	34.0%	10.8%	19.1%	19.6%	29.4%	1.5%	6.7%		
年齢	20～24歳	15	17	12	6	3	6	5	5	4	10	0	1	N=29	51.7%	58.6%	41.4%	20.7%	10.3%	20.7%	17.2%	13.8%	34.5%	—	3.4%		
	25～29歳	23	31	25	14	6	22	5	9	11	23	0	3	N=56	41.1%	55.4%	44.6%	25.0%	10.7%	39.3%	8.9%	16.1%	19.6%	41.1%	—	5.4%	
	30～34歳	32	34	21	8	1	24	7	14	15	18	3	3	N=66	48.5%	51.5%	31.8%	12.1%	1.5%	36.4%	10.6%	21.2%	22.7%	27.3%	4.5%	4.5%	
	35～39歳	14	20	19	3	0	14	3	8	7	5	0	5	N=39	35.9%	51.3%	48.7%	7.7%	—	35.9%	7.7%	20.5%	17.9%	12.8%	—	12.8%	
	40歳～	1	2	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	N=4	25.0%	50.0%	25.0%	—	—	—	25.0%	25.0%	25.0%	—	25.0%		
	現在就労中	57	71	53	24	9	52	15	22	27	42	3	7	N=134	42.5%	53.0%	39.6%	17.9%	6.7%	38.8%	11.2%	16.4%	20.1%	31.3%	2.2%	5.2%	
就労状況	かつて就労	25	30	22	5	1	13	5	14	10	13	0	6	N=56	44.6%	53.6%	39.3%	8.9%	1.8%	23.2%	8.9%	25.0%	17.9%	23.2%	—	10.7%	
	未就労	3	3	3	2	0	1	1	1	1	2	0	0	N=4	75.0%	75.0%	75.0%	50.0%	—	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	—	—	
二級建築士	取得	24	33	29	13	2	51	5	7	13	21	0	1	N=60	40.0%	55.0%	48.3%	21.7%	3.3%	85.0%	8.3%	11.7%	21.7%	35.0%	—	1.7%	
	未取得	60	69	48	18	8	15	16	29	25	35	3	12	N=132	45.5%	52.3%	36.4%	13.6%	6.1%	11.4%	12.1%	22.0%	18.9%	26.5%	2.3%	9.1%	
卒業時の就職先	設計デザイン	20	25	16	10	1	19	3	8	7	17	0	3	N=38	52.6%	65.8%	42.1%	26.3%	2.6%	50.0%	7.9%	21.1%	18.4%	44.7%	—	7.9%	
	インテリア関連	1	4	2	0	0	3	0	0	2	1	0	1	N=9	11.1%	44.4%	22.2%	—	—	33.3%	—	—	22.2%	11.1%	—	11.1%	
	ショールーム・店舗接客・販売	5	6	5	3	0	0	2	2	1	2	0	1	N=10	50.0%	60.0%	50.0%	30.0%	—	—	20.0%	20.0%	10.0%	20.0%	—	10.0%	
	工事管理	2	4	2	0	0	4	0	0	0	2	0	0	N=6	33.3%	66.7%	33.3%	—	—	66.7%	—	—	—	33.3%	—	—	
	積算	3	5	3	2	0	2	3	2	2	5	0	0	N=6	50.0%	83.3%	50.0%	33.3%	—	33.3%	50.0%	33.3%	33.3%	83.3%	—	—	
	施工図作成	7	10	9	1	0	5	0	1	4	4	0	1	N=14	50.0%	71.4%	64.3%	7.1%	—	35.7%	—	7.1%	28.6%	28.6%	—	7.1%	
	CADオペレーター	10	11	7	2	1	9	3	2	4	4	0	1	N=17	58.8%	64.7%	41.2%	11.8%	5.9%	52.9%	17.6%	11.8%	23.5%	23.5%	—	5.9%	
	製品開発	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	N=1	100.0%	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	営業・販売	7	8	10	4	4	4	3	8	3	7	0	1	N=22	31.8%	36.4%	45.5%	18.2%	18.2%	18.2%	13.6%	36.4%	13.6%	31.8%	—	4.5%	
	事務職	17	17	15	4	1	11	3	7	13	11	2	3	N=46	37.0%	37.0%	32.6%	8.7%	2.2%	23.9%	6.5%	15.2%	28.3%	23.9%	4.3%	6.5%	
	その他	5	6	4	3	2	6	2	3	1	1	1	1	N=12	41.7%	50.0%	33.3%	25.0%	16.7%	50.0%	16.7%	25.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	
	現在の仕事内容	設計デザイン	8	10	8	5	1	16	1	2	6	6	0	1	N=21	38.1%	47.6%	38.1%	23.8%	4.8%	76.2%	4.8%	9.5%	28.6%	28.6%	—	4.8%
		インテリア関連	2	4	2	0	0	3	0	0	1	1	0	0	N=5	40.0%	80.0%	40.0%	—	—	60.0%	—	—	20.0%	20.0%	—	—
		ショールーム・店舗接客・販売	3	3	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	N=3	100.0%	100.0%	—	—	—	33.3%	33.3%	—	33.3%	—	—	
工事管理		0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	N=2	—	100.0%	—	—	—	—	—	50.0%	—	—	—	—	
積算		2	2	1	1	0	1	1	1	1	2	0	0	N=3	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	—	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	—	—	
施工図作成		2	6	3	1	0	4	0	0	2	0	2	0	N=6	33.3%	100.0%	50.0%	16.7%	—	66.7%	—	—	—	33.3%	—	—	
CADオペレーター		6	8	7	2	1	6	2	3	4	3	0	0	N=11	54.5%	72.7%	63.6%	18.2%	9.1%	54.5%	18.2%	27.3%	36.4%	27.3%	—	—	
製品開発		1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	N=2	50.0%	50.0%	50.0%	—	—	—	—	50.0%	—	—	—	—	
営業・販売		3	9	10	5	3	3	3	3	2	6	0	0	N=14	21.4%	64.3%	71.4%	35.7%	21.4%	21.4%	21.4%	21.4%	14.3%	42.9%	—	—	
事務職		13	12	10	4	1	4	3	3	6	8	2	4	N=32	40.6%	37.5%	31.3%	12.5%	3.1%	12.5%	9.4%	9.4%	18.8%	25.0%	6.3%	12.5%	
大工・職人		1	1	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	N=3	33.3%	33.3%	33.3%	—	—	66.7%	—	33.3%	—	33.3%	—	33.3%	
その他		11	10	7	4	2	7	3	7	4	9	1	0	N=23	47.8%	43.5%	30.4%	17.4%	8.7%	30.4%	13.0%	30.4%	17.4%	39.1%	4.3%	—	

複数回答

まず、卒業時の就職先の結果をみると、「設計デザイン」では「在学中に取得した資格」、「住居分野以外の教養・知識」以外の項目が全体を上回っている。特に「設計製図など実習で得た専門技術」65.8%、「講義などで得た専門知識」52.6%、「二級建築士の受験資格」50.0%は半数以上をしめる。また、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」44.7%、「教員の助言」26.3%についても全体を上回る。住居学科の設計製図など実習に重きをおいた専門教育は、設計デザインの仕事を選ぶ学生の自己形成において、強い影響を与えていることがわかる。これは「設計デザイン」に従事している者に限らず、「ショールーム・店舗の接客・販売」、「工事管理」、「積算」、「施工図作成」、「CADオペレーター」にもいえる。逆に「営業・販売」、「事務職」にとっては「広い視野で考えられるようになった」、「自分の価値観を形成出来た」といった専門教育よりも広い視点から評価されている。

次に、現在の仕事内容別にみると、卒業時の就職先に比べ、全体的に評価が下がる。しかし、「CADオペレーター」に従事している者の評価は各項目とも高い。ほかの職種に比べ離職者が少ないことが評価を維持している理由として考えられる。

2 仕事をする上での住居学科教育の影響

現在就労している卒業生を対象に、仕事をする上で住居学科の教育が活かされていることがあるかを質問した。年齢別、就労状況別、二級建築士取得別、仕事内容別にクロス集計をした結果を表14に示す。全体をみると、前節の自己形成への影響と同様に「設計製図など実習で得た専門技術」が最も多い(56.8%)。次いで「講義などで得た専門知識」41.5%となる。しかし、そのほかは自己形成への学科教育の影響より下回り、「在学当時の友人との付き合いやネットワーク」は17.5%、二級建築士の受験資格や物事に取り組む姿勢についても28%弱にとどまっている。

1) 年齢別

年齢別にみると、20代前半とそれより前の年代に開きがある。「設計製図など実習で得た専門技術」については、20代前半が41.7%なのに対し、20代後半は63.0%、30代前半は54.7%、30代後半は63.2%が仕事に活かされていると答えている。また、二級建築士の受験資格についても、20代前半は8.3%なのに対し、30代後半の約4割は仕事に活かされていると答えている。これとは逆に20代前半が他の年代よりも仕事に活かされていると感じていることに「在学当時の友人との付き合いやネットワーク」25.0%があげられる。また20代後半、30代前半と他の年代との間に差が現れているのは、「広い視野で考えられるようになった」「自分の価値観を形成できた」、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」である。但し、仕事の技術、技能、知識などに関するものについては仕事の継続期間や習得時期によって変わってくることを考慮しなければならない。また、個人の価値観形成に関係する項目に関しては、在学当時の学科教育の内容も考慮する必要がある^{注3)}。

表14 仕事をする上での住居学科教育の影響

単位：人

		専門知識	講義などで得た	設計製図など実習で得た専門技術	ネットフックや、在学当時の友人	教員の助言	在学中に取得した資格	二級建築士の受験資格	住居分野以外の教養・知識	広い視野で考えられるようになった	形成出来た	自分の価値観を	姿勢が身に付いた	物事に取組む	特になし
全体	N=183	76	104	32	25	7	51	17	30	31	50	23			
		41.5%	56.8%	17.5%	13.7%	3.8%	27.9%	9.3%	16.4%	16.9%	27.3%	12.6%			
年齢	20～24歳	11	10	6	3	1	2	4	2	2	8	4			
	N=24	45.8%	41.7%	25.0%	12.5%	4.2%	8.3%	16.7%	8.3%	8.3%	33.3%	16.7%			
	25～29歳	23	34	9	9	6	14	1	10	11	22	5			
	N=54	42.6%	63.0%	16.7%	16.7%	11.1%	25.9%	1.9%	18.5%	20.4%	40.7%	9.3%			
	30～34歳	28	35	11	11	0	20	9	13	14	16	7			
	N=64	43.8%	54.7%	17.2%	17.2%	—	31.3%	14.1%	20.3%	21.9%	25.0%	10.9%			
	35～39歳	13	24	5	1	0	15	2	5	4	3	6			
	N=38	34.2%	63.2%	13.2%	2.6%	—	39.5%	5.3%	13.2%	10.5%	7.9%	15.8%			
	40歳～	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1			
	N=3	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	—	—	33.3%	—	—	33.3%	33.3%			
就労状況	現在就労中	52	72	26	20	7	40	14	22	26	40	15			
	N=134	38.8%	53.7%	19.4%	14.9%	5.2%	29.9%	10.4%	16.4%	19.4%	29.9%	11.2%			
	かつて就労	24	32	6	5	0	11	3	8	5	10	8			
	N=49	49.0%	65.3%	12.2%	10.2%	—	22.4%	6.1%	16.3%	10.2%	20.4%	16.3%			
二級建築士	取得	22	31	14	10	2	45	4	10	15	18	1			
	N=57	38.6%	54.4%	24.6%	17.5%	3.5%	78.9%	7.0%	17.5%	26.3%	31.6%	1.8%			
	未取得	53	72	18	15	5	6	13	19	16	31	21			
	N=127	42.7%	58.1%	14.5%	12.1%	4.0%	4.8%	10.5%	15.3%	12.9%	25.0%	16.9%			
卒業時の就職先	設計デザイン	19	27	8	7	0	17	3	7	8	14	1			
	N=36	52.8%	75.0%	22.2%	19.4%	—	47.2%	8.3%	19.4%	22.2%	38.9%	2.8%			
	インテリア関連	1	5	0	0	0	2	0	1	3	2	0			
	N=9	11.1%	55.6%	—	—	—	22.2%	—	11.1%	33.3%	22.2%	—			
	ショールーム・店舗接客・販売	5	7	1	2	0	0	0	1	0	2	0			
	N=10	50.0%	70.0%	10.0%	20.0%	—	—	—	10.0%	—	20.0%	—			
	工事管理	1	3	0	0	0	3	0	0	0	1	0			
	N=5	20.0%	60.0%	—	—	—	60.0%	—	—	—	20.0%	—			
	積算	3	4	2	3	0	3	2	2	1	5	0			
	N=6	50.0%	66.7%	33.3%	50.0%	—	50.0%	33.3%	33.3%	16.7%	83.3%	—			
	施工図作成	8	12	4	3	0	5	1	1	1	4	0			
	N=14	57.1%	85.7%	28.6%	21.4%	—	35.7%	7.1%	7.1%	7.1%	28.6%	—			
	CADオペレーター	9	10	3	1	1	8	3	3	4	3	2			
	N=16	56.3%	62.5%	18.8%	6.3%	6.3%	50.0%	18.8%	18.8%	25.0%	18.8%	12.5%			
	製品開発	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	N=1	—	100.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	営業・販売	8	8	6	3	3	2	1	6	6	7	4			
	N=22	36.4%	36.4%	27.3%	13.6%	13.6%	9.1%	4.5%	27.3%	27.3%	31.8%	18.2%			
	事務職	14	18	7	1	1	8	5	8	5	10	9			
	N=46	30.4%	39.1%	15.2%	2.2%	2.2%	17.4%	10.9%	17.4%	10.9%	21.7%	19.6%			
	その他	6	6	1	4	2	2	2	1	2	2	2			
	N=13	46.2%	46.2%	7.7%	30.8%	15.4%	15.4%	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	15.4%			
現在の仕事内容	設計デザイン	8	10	5	3	0	14	1	3	6	6	1			
	N=21	38.1%	47.6%	23.8%	14.3%	—	66.7%	4.8%	14.3%	28.6%	28.6%	4.8%			
	インテリア関連	1	4	1	0	0	2	0	1	1	2	0			
	N=5	20.0%	80.0%	20.0%	—	—	40.0%	—	20.0%	20.0%	40.0%	—			
	ショールーム・店舗接客・販売	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0			
	N=3	100.0%	66.7%	—	—	—	33.3%	—	—	—	—	—			
	工事管理	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1			
	N=2	—	50.0%	—	—	—	—	—	50.0%	—	—	50.0%			
	積算	2	2	0	1	0	2	1	1	0	1	0			
	N=3	66.7%	66.7%	—	33.3%	—	66.7%	33.3%	33.3%	—	33.3%	—			
	施工図作成	3	6	2	1	0	4	0	0	0	1	0			
	N=6	50.0%	100.0%	33.3%	16.7%	—	66.7%	—	—	—	16.7%	—			
	CADオペレーター	6	7	4	2	1	6	3	3	2	3	0			
	N=11	54.5%	63.6%	36.4%	18.2%	9.1%	54.5%	27.3%	27.3%	18.2%	27.3%	—			
	製品開発	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0			
	N=2	—	50.0%	50.0%	—	—	—	—	50.0%	—	—	—			
	営業・販売	5	7	8	6	2	2	3	2	3	4	2			
	N=14	35.7%	50.0%	57.1%	42.9%	14.3%	14.3%	21.4%	14.3%	21.4%	28.6%	14.3%			
	事務職	10	13	3	2	0	3	4	2	5	9	8			
	N=32	31.3%	40.6%	9.4%	6.3%	—	9.4%	12.5%	6.3%	15.6%	28.1%	25.0%			
	大工・職人	0	2	1	0	0	1	0	0	1	1	0			
	N=2	—	100.0%	50.0%	—	—	50.0%	—	—	50.0%	50.0%	—			
	その他	11	12	0	3	3	2	2	5	6	9	1			
	N=24	45.8%	50.0%	—	12.5%	12.5%	8.3%	8.3%	20.8%	25.0%	37.5%	4.2%			

複数回答

2) 就労状況別

就労状況別にみると、「設計製図など実習で得た専門技術」、「講義などで得た専門知識」は全体と同様に評価されているが、「設計製図など実習で得た専門技術」、「講義などで得た専門知識」については、現在仕事をしていない者のほうが1割ほど高く学科教育を評価している。学科教育の軸となる実習、講義について就労者の評価が低いのは、自由記述に「学習する内容と実際に社会の中で業務するために必要な知識の差はある」、「経験をつむことが必要」「仕事をしていくために常に勉強」という回答があるように、実際の現場で学ぶことも多いためといえる。

3) 二級建築士取得別

二級建築士の資格取得別にみると、差が顕著にあらわれているのが「二級建築士の受験資格」である(78.9%)。自己の価値観形成、友人との付き合いやネットワークについても資格取得者のほうが積極的な評価をしている。一方、講義や設計製図などの実習については、二級建築士を取得していない者の評価が高い。

4) 仕事内容別

卒業時の就職先をみると、「設計デザイン」では自己形成への学科教育の影響と同様に「在学に取得した資格」、「住居分野以外の教養・知識」以外の項目が全体を上回る。特に「設計製図など実習で得た専門技術」は75.0%になる。また、「講義などで得た専門知識」52.8%、「二級建築士の受験資格」47.2%、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」38.9%となり学科教育への評価は高い。これと同様の傾向を示すのが「施工図作成」、「CADオペレーター」である。どちらも設計製図などの専門技術、講義、二級建築士の受験資格に対して過半数の者が仕事に活かされていると答えている。一方、「事務職」は「設計製図など実習で得た専門技術」39.1%、「講義などで得た専門知識」30.4%である以外は評価が低い。これより住宅・建設・インテリア業界の中でも専門技術職に就職した者のほうが学科教育への評価は高いことがわかる。

次に、現在の仕事内容別にみると、各職種とも、卒業後現在に至るまで仕事を続けてきているため設計製図、講義への評価は高くなっている。特に仕事が専門技術、専門技能と関わる「CADオペレーター」や「施工図作成」など職種は「設計製図など実習で得た専門技術」6～10割、「二級建築士の受験資格」66.7%と評価は高い。事務職、営業・販売職においても設計製図などで得た専門技術は4～5割が仕事にいかされていると答えている。また、営業・販売職は他の職種に比べて、友人との付き合いやネットワークについての影響が強く出ている。技術職ではない職種では評価される項目が違うことが示唆される。

以上より、住居学科卒業生による学科教育の評価は、自己形成、仕事の双方において「設計製図など実習で得た専門技術」、「講義などで得た専門知識」、「二級建築士の受験資格」、「物事に取り組む姿勢の習得」が評価された。

VI おわりに

今回の調査で、以下のことが明らかになった。

- 1) 仕事に対する意識をみると年代を問わず7割近くの者が「これまでの専門、キャリアを更に積み上げていきたい」、「社会的な評価が低くとも自分のやりたい仕事をしたい」、「生活の変化に合わせて柔軟に仕事の仕方を変えていきたい」としている。また、「住居・インテリア・建築方面で働きたい」者も7割前後いる。女性が家庭や生活と両立しながら働く環境を求めている姿がみえる。
- 2) 卒業時の就職先として、住宅・建設・インテリア業界に就職している者が回答者の4分の3になる。職種を見ると、建築学系大学卒業生⁴⁾、四年制女子大学住居学科卒業生⁵⁾の就職に比べ、事務職の割合が高い。また、「設計デザイン」、「CADオペレーター」、「事務職」に就いた者は他の者に比べ、転職後も同様の仕事についている割合が高い。
- 3) 卒業生の自己形成および仕事に対し、住居学科の設計製図などの実習教育、講義が影響を与えている。特に、住居学科の中心的教育である設計製図などの実習は、直接的な設計業務などに携わらない卒業生に対しても影響を与えている。また、自己形成をする上では「友人との付き合いやネットワーク」、「物事に取り組む姿勢が身に付いた」が影響を与えている。

今後は、卒業生の生活観と就労状況の関連、また本報では述べなかった仕事への意識（重要視すること、満足度）、再教育への意欲、学科カリキュラムの変遷との関連についても考察し、学科教育プログラムの課題を抽出する予定である。

尚、本研究は2005年度（平成17年度）岡野研究奨励補助金を受けて実施されたものである。

謝辞

本研究にあたり、予備調査を含めアンケート調査にご協力いただいた多くの卒業生に深く感謝を申し上げる。

注

- 1) 本学卒業生に対する二級建築士受験に伴う実務経験は、1984～1993年（生活学科住居学専攻）までは卒業後実務経験1年を有し、1994年以降（住居学科に改組）に卒業後実務経験0年となった。
- 2) 第1回生（1966年生まれ）が2005年に40歳になるため、20代から40代初頭にかけての分布となる。
- 3) 現在の30代前半、20代後半が在学していた時期は、生活学科から住居学科への改組時期にあたり、学科における教育の方向性が転換した時期でもある。

参考文献

- 1) 厚生労働省：働く女性白書，平成 16 年度
- 2) 小方直幸，金子元久：「女子事務職」の形成と融解—短大卒を中心に，日本労働研究雑誌，巻号 39 (6)，p.2～12，1997
- 3) 文部科学省：学校基本調査，平成 16 年度
- 4) 日本建築学会建築教育委員会：建築系大学卒業生の進路に関する調査報告書，2004
- 5) 日本女子大学住居学科同窓会住居の会：日本女子大学卒業生白書—二八三七人からのメッセージ，住まいの図書館出版局，p.147～182，1994